

学ぶ防災事業



未来へつなぐ！防災の記憶と教訓

宮古市企業版ふるさと納税寄附募集プロジェクト



(プロジェクトの概要)

「学ぶ防災」事業は、東日本大震災の大津波で被災した「田老地区」において実施している事業であり、津波発生時の現地の状況、避難の様子、被災後の復興の過程などを「学ぶ防災ガイド」が防潮堤の上で解説し、参加者の防災意識の向上に寄与しています。

また、津波到達時に「たろう観光ホテル」6階から、社長自らが撮影していた映像もご覧いただき、津波の恐ろしさ、そして避難の大切さを知っていただきます。

ホテルは現在『津波遺構』として登録されており、建物自体が東日本大震災の痕跡となっています。また、三陸ジオパークのジオの見どころとしても登録されています。

世界各地で起こる自然災害においても参考、教訓となり、実際の体験から語られる「学ぶ防災」事業は、防災教育の重要な教材であります。

平成24年の事業開始以降、これまでに24万人を超える方々に参加頂いており、これからも防災の記憶と教訓を未来へつないでまいります。



(事業の具体的な内容)

「学ぶ防災ガイド」5名
(常勤3名、季節雇用2名)の
人件費



津波遺構「たろう観光ホテル」の
維持管理費
(修繕、エレベーター保守点検等)

(事業費)

952万円

(寄附目標額)

500万円

(企業の皆様へのメッセージ)

東日本大震災から15年の月日が流れましたが、いまだ被災地は復興の途中です。

そして、熊本地震、能登半島地震など、日本各地で多くの震災が発生しております。

時として、忘れてしまいがちな防災の記憶、教訓を発信し、多くの方に防災意識の大切さを伝え、後世の命を守るために、私たちは「学ぶ防災」事業を実施しています。

震災を経験した私たちだからできること、そして皆様に伝えたいこと、そのすべてを未来へつなぐため、皆様のご協力をお願いいたします。